



発行所

松山市旭町 71
愛媛県立
松山商業高等学校

編集兼発行所

松商文芸・新聞部
印刷 クボタ印刷(株)

士魂商才

城山の
ひと刷毛ごとの
緑かな
(谷井紀夫)

ビジネス社会に生きる 校長 田中圭



これからのビジネス社会は、テクノロジー、環境、そして価値観の劇的な変化が主導する時代になるでしょう。AIやロボティクス、バイオテクノロジーの進化は、私たちの仕事や生活の在り方を再定義し、社会構造を根底から変える可能性を秘めています。また、環境問題や社会的課題への取組は、ビジネスの在り方に新たな倫理観を求めるでしょう。このような時代を生き抜くためには、新たなスキルや心構えが必要です。これからのビジネス社会を生きるために、私が必要だと考えることをまとめてみます。

パスが過去のものとなる中で、柔軟に新しい知識を吸収し、適応する力が求められます。学習ツールを使いこなし、AIと協働しながら自らの能力を高めていく姿勢を持つことが重要です。「好奇心」と「挑戦心」を失わないでください。

人間らしさを大切にすること

AIやロボットが多く

の仕事を代替する一方で、人間の本質的な価値はむしろ高まるでしょう。創造性、共感性、倫理観など、機械では再現できない人間特有の特性を育むことが未来において不可欠です。他者との深い対話を通じて物事を鋭い観察力で見通したり、文化やアイトを通じて新しい視点を育んだりすることが、成功の鍵となるでしょう。

学び続ける力を磨くこと

技術の進化や社会の変化が著しい未来では、「学び方を学ぶ」ことが極めて重要です。習得した知識やスキルの有為に使える期間が短くなり、終身雇用や固定的なキャリア

パスが過去のものとなる中で、柔軟に新しい知識を吸収し、適応する力が求められます。学習ツールを使いこなし、AIと協働しながら自らの能力を高めていく姿勢を持つことが重要です。「好奇心」と「挑戦心」を失わないでください。

価値を創造することが、ビジネスの成功に直結します。特に、ジェンダーや人種、世代を超えたチームでの協働が、新しいイノベーションの原動力となるでしょう。

共感性を大切にすること

技術の進化に伴い、人間同士のつながりがより

大切になり、共感性が重要なスキルとして認識されるでしょう。データや技術だけでは解決できない問題に立ち向かうためには、人と人との間の信頼と協力が欠かせません。また、異なる文化や背景を持つ人々と共に働く機会が増える中で、多様性を尊重し、異なる視点を受け入れることで、これまでにない発想やイノベーションが生まれます。他者を理解しようと努める共感の姿勢を持つことは、チームや組織を強くし、社会にポジティブな影響を与える鍵となります。

多様性と協力の価値を認識すること

グローバル化がさらに進む中で、異文化を理解し多様性を受け入れる力は重要です。また、自分ひとりで成果を上げようとするのではなく、異なるバックグラウンドを持つ人々と協力して新しい

価値を創造することが、ビジネスの成功に直結します。特に、ジェンダーや人種、世代を超えたチームでの協働が、新しいイノベーションの原動力となるでしょう。

成功を長期的に得ることができます。

失敗を恐れずチャレンジ精神を持つこと

未来は予測不能な変化に満ちています。新しいアイデアに挑戦する姿勢が重要です。皆さんには失敗を恐れず、挑戦を楽しむ心を持ち続けてほしいと思います。一歩踏み出す勇気が、未来を切り開く力となるのです。「失敗は学びの証」であるという意識を持ち、そこから得た教訓を次のチャレンジに生かしてください。

テクノロジーの理解を深めること

AIやデータサイエンス、ブロックチェーン、量子コンピューティングなど、新たな技術が私たちの社会を形成していく中、これらを理解し活用する力が求められます。ただし、テクノロジーを全て信じて従うのではなく、その倫理的な側面や影響について批判的に考えることも忘れないでください。

自己の価値観や目標を明確に持つこと

多くの情報が溢れる未来では、自分自身の価値観や目標を明確に持つことが重要です。どのようなトレンドや社会的圧力があっても、自分の軸を持ち、それに基づいて行動することで、満足感や

成功を長期的に得ることができます。

明日へ駆ける！

松商 5年ぶり 都大路へ！

2024(令和6)年12月22日(日) 男子第75回全国高等学校駅伝競走大会が行われ、陸上競技部が出場した。県予選ではチームが思いをついにたすきをつなぎ、3区、また5区以降で区間1位をキープし、2位に1分3秒の大差をつけ優勝。5年ぶり14回目の都大路を、2時間11分23秒(58団体中45位)で駆け抜けた。

両大会で4区5区のたすきをつないだ田中総司さん・主将の赤尾優斗さん(ともに3年)にその思いを聞いた。



夢ではなく

田中 総司

試走の時、開会式、選手紹介の時、仲間から受け取ったたすきを握りしめてスタートした時、そして京都の街を駆け抜ける瞬間、どれもが夢のような瞬間だった。「しっかり落ち着いて」という濱田先生のアドバイスに、胸に、また、一緒に練習に励んできた仲間、支えてくださった方々のこと

都大路へ

赤尾 優斗

都大路を走れたことは大きな喜びだ。しかし、自分を大きく成長させてくれたのは、全国大会に出場するまでの日々だった。主将となり「皆を引っ張らなければ」という責任感から、自分なりに考え、気付きをつけることができたと思う。都大路は今までのレースとはいい意味で全く違った。当日は車道を走る。試走時の歩道とは異なり、思った以上の上りや強い向かい風が冷たく、最



応援報告

文芸・新聞部 入砂 果恋 井上 加乃

私たち応援生徒約40人は、先生方とともにバスで京都府西京極陸上競技場へ向かった。競技場には、チームのテントや屋台などが設置され、テレビカメラも多く、朝からたくさんの人で賑わっていた。競技が始まると、沿道や中継地点にはスマホで中継を見ながら、い



members

- | | |
|---------------|--------|
| 1区(10 km) | 小野 晴生 |
| 2区(3 km) | 兵頭 銀二 |
| 3区(8.1075 km) | 梅木 新太 |
| 4区(8.0875 km) | 田中 総司 |
| 5区(3 km) | 赤尾 優斗 |
| 6区(5 km) | 濱田 琥ノ介 |
| 7区(5 km) | 菊地 蓮太郎 |

まかいまかとランナー達を待つ多くの人が。選手が通るたびに声をかけている人や、歩道を一列に走っている人もいた。選手

の周りには、中継車や警察車両が何台も配置され、改めて大きな大会なのだ実感した。約2時間後、競技場に向かう電車は、ゴールを見ようとする人たちが溢れ、最寄駅から競技場へ走って行く人も。多くの選手、応援する人、競技場が埋め尽くされていた。私たちの応援に込めた思いが、熱狂させてくれた陸上競技部の皆さん、お疲れ様でした。これから